

- 6) 小川武希. 保健室における外科的・内科的な応急処置と対応について. 渋谷区中学校養護教諭研修会. 東京, 11月.
- 7) 小川武希. (公開サテライトシンポジウム司会)脳卒中治療における超音波の役割～経頭蓋超音波脳梗塞治療法を中心に～. 第9回日本栓子検出と治療学会. 京都, 11月.

内 視 鏡 科

教授: 田尻 久雄	消化器内視鏡診断・治療, 胆膵内視鏡診断と治療
助教授: 貝瀬 満	消化器内視鏡診断・治療, <i>H. pylori</i> ・消化管発癌の基礎的臨床的研究
講師: 角谷 宏	胆道内視鏡, 門脈圧亢進症の画像診断
講師: 加藤 智弘	消化器内視鏡診断・治療, Peyer's patch, 特にM細胞を中心とした消化管免疫機構
講師: 鈴木 武志	消化器内視鏡, 消化器癌・大腸腫瘍の診断及び治療, 赤外線内視鏡
講師: 松田 浩二	消化器内視鏡診断・治療, 特に超音波内視鏡・内視鏡データベース・教育システム・洗浄消毒

研 究 概 要

I. 上部消化管および咽頭悪性疾患に関する研究

1. 胃食道悪性腫瘍の内視鏡診断に関する研究
食道癌, 胃癌を早期に発見し正確な診断をすることは, 適切な治療を選択, 実行する上で重要である。従来の内視鏡診断に加え, 以下の新たな取り組みを行っている。

1) 狭帯域フィルター内視鏡 (Narrow Band Imaging: NBI) システムを併用した拡大内視鏡観察: 80倍の拡大観察に特殊な光源システムを併用したもので, 粘膜表層の微細模様や毛細血管を観察できる。生検によらない胃癌の組織型・深達度診断や病巣の進展範囲の診断, Barrett 食道における癌の発生母地としての特殊円柱上皮の同定に関して検討し, それらの成果はすでに国内外の学会, 論文にて報告している。

2) 超音波内視鏡下穿刺, 吸引法: 食道, 胃の粘膜下腫瘍, 縦隔や腹部の腫大リンパ節など内視鏡では直視下に観察が不可能な病変に対し, 超音波画像で病変を確認しながら針を穿刺して細胞を直接採取し, 病変の組織診断をする超音波内視鏡下穿刺, 吸引法を行い, 安全性ならびに有用性を評価している。

3) 自家蛍光内視鏡 Auto fluorescence Imaging (AFI)

消化管粘膜から発生する自家蛍光を画像化する

AFI は、消化管腫瘍の早期発見に応用できる可能性が示されている。AFI と通常光、NBI の3つの診断法の特性を明らかにするため、前向きに臨床試験を行い検討を進めている。

2. 胃食道悪性腫瘍の内視鏡治療に関する研究

近年、内視鏡診断技術や治療用処置具の向上により、内視鏡治療可能な早期胃癌、食道癌の症例が増加している。内視鏡治療の発展に寄与すべく以下の研究を行っている。

1) 内視鏡的粘膜切除術 (EMR) の適応拡大: 早期胃癌については EMR の絶対適応に加え、潰瘍非合併の低分化型腺癌、20 mm 以上の粘膜内の高分化型腺癌および粘膜下層微小浸潤例の適応拡大について、病理学的背景をもとに検討を行っている。食道癌では、リンパ節転移の解析から、上皮内癌 (m1)、粘膜固有層癌 (m2) まだが EMR の適応であるが、粘膜筋板癌 (m3) および sm1 に対する適応について検討している。

2) 新しい機器を用いた治療: multi-bending scope (M-scope) は従来の内視鏡に可変構造が追加されたもので、胃体部小弯および大弯、噴門部など、従来の内視鏡では治療困難であった部位に有効であることを報告した。さらに、拡大観察機能をもつ M-scope を用いることにより、安全で確実な内視鏡治療を行う検討を前向きに行っている。また、最近では挙上および左右可動鉗子が M-scope に追加装着された特殊なスコープ (R-scope) を開発し、先進的内視鏡治療を目指し、臨床研究を推進している。

3. 胃癌と *Helicobacter pylori* の関与に関する研究

Helicobacter pylori (*H. pylori*) と胃癌の密接な関連は、疫学的・実験的・臨床的にも明らかとなっており、日常的に胃癌臨床に携わる当科においては、必要不可欠な研究テーマである。そこで我々は、東芝病院研究部との共同研究により、胃発癌と *H. pylori* の関連を明らかにすべく実験を行っており、特に *H. pylori* と遺伝子メチル化について取り組んでいる。これまでに *H. pylori* 除菌治療により遺伝子メチル化が改善すること、遺伝子メチル化が胃癌のリスクと相関することを明らかにしており、国内外の学会にて発表を行っている。また、iNOS 遺伝子多型が *H. pylori* 感染による胃発癌に関与する可能性を検討し、英文論文として報告した。

4. 中・下咽頭悪性疾患に対する研究

ヨード色素内視鏡により、食道癌の約半数は早期に発見されるようになり、その予後は著しく改善した。食道癌の治療成績の向上に伴い、高頻度に同時・

異時性に重複する中・下咽頭癌が食道癌患者の予後や生活の質 (Quality of life: QOL) の低下に大きく関わってくるようになった。中・下咽頭癌においても食道癌や胃癌と同様に早期診断・早期治療が何よりも重要なのであるが、食道癌と異なり、ヨード染色の実施が著しく制約されるため、早期の発見が極めて困難とされてきた。しかし、狭帯域フィルター内視鏡 (narrow band imaging: NBI) システムと拡大内視鏡との併用により、ヨードを用いることなく、早期の中・下咽頭癌の拾い上げが可能になった。現在、当科では中・下咽頭表在癌に対する NBI システム併用拡大内視鏡の有用性について、Randomized controlled study (部外施設との多施設検討) を開始し、詳細な検討を行っている。

II. 上部消化管機能に関する研究

胃食道逆流症 (非びらん性胃食道逆流症 = NERD も含む) や機能性胃腸症では、消化管運動能、消化管神経過敏性などの消化管機能の障害がその病態の基本となる。従ってこれらの病態について、内視鏡画像診断を用いた研究だけでなく消化管機能に対する研究が不可欠である。

最近開発された極細径内視鏡を使用して食道機能の評価システムを構築する研究を行っている。生理的条件下で内視鏡観察を行うと同時に、食道過敏性試験・食道運動能評価を行うための基礎的な研究を開始し、臨床応用へと発展されることを目指している。

III. 胃食道静脈瘤の診断と治療

主としてカラードプラー超音波内視鏡 (CD-EUS) を用いて門脈血行動態を分析している。食道静脈瘤では、内視鏡治療後の再発に関与する因子が明らかになり、早期再発例の予測が可能である。また、胃静脈瘤において胃腎短絡路の存在を高い精度で診断でき、IVR 適応症例の決定とその効果を予測する上で有用である。

IV. 小腸・大腸内視鏡に関する研究

1. 内視鏡診断学に関する研究

小腸カプセル内視鏡は今まで診断不可能とされてきた小腸病変を見つける検査法で、新しいモダリティである。欧米ではすでに保険適応の認可を受け、現在までに約 30 万件施行され、小腸病変の検索では第一選択手技として推奨されている。本邦でも近日中に保険診療が実施される予定である。当科ではすでに全国 12 施設と共同で小腸カプセル内視鏡

検査の有用性について検討し、報告してきた。今後は食道カプセル内視鏡と併せて、その有用性について詳細な検討を行う予定である。

また大腸腫瘍性病変の術前診断は治療方針決定に大きな要素である。その診断で不要な内視鏡治療および外科治療が省けるからである。当科ではオリンパス社製の自家蛍光内視鏡および狭小帯フィルターを搭載した特殊内視鏡を駆使して、その診断精度の向上に取り組んでいる。

2. 手技・治療に関する研究

腫瘍径の大きい病変では粘膜内に局限した病変でも、一般的には外科切除が第一選択で行われてきた。しかしながら、上部消化管腫瘍と同様、内視鏡観察下で一括切除を施行する施設がみられる。しかしながら大腸腫瘍の場合、出血・穿孔といった偶発症の発生頻度が著しく高く、標準化された術式というには程遠いのが現状である。当科ではより安全に、確実な治療法を目指し、症例に応じて粘膜切開術を含めた一括切除による治療法にも取り組んでいる。

また切除後の潰瘍部からの術後出血の予測として赤外線内視鏡を駆使し、再出血の予測につとめ、現在その有用性について検討している。

V. 胆膵内視鏡に関する研究

1. 診断に関する研究

DPC 導入に伴い、胆膵悪性腫瘍の診断にはより合理的な診断体系が求められつつある。胆膵悪性腫瘍の合理的かつ確実な診断体系の確立を目指して、超音波内視鏡(EUS)、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)、MDCT、MRCP、ERCP の診断能の比較検討を行っている。また EUS-FNA で採取した組織に免疫組織学染色を行い、染色度と臨床経過の関連を検討し、EUS-FNA による予後診断を目指している。また、EUS-FNA による組織採取、正診率の向上を目指し、22G および 25G 穿刺針の比較検討を行っている。

乳頭部腫瘍の診断では NBI システムを併用した拡大観察による表面微細構造の特徴像から良悪性を鑑別し、EUS にて深達度診断を行っている。この診断結果に基づき内視鏡的乳頭切除術の適応を決定し良好な成績を得ている。

2. 治療に関する研究

閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄法として外瘻術(内視鏡的経鼻胆道ドレナージ: ENBD) と内瘻術(内視鏡的胆道ドレナージ: EBD) が広く行われているが、両者の使い分けに関して明確な基準はない。両者の特徴を明らかにするために、randomized

study による比較検討を行っている。また、最近、新たに開発、市販された形状記憶型のメタリックステントを悪性胆道狭窄に用い、その有用性を明らかにするために、従来型のステントと historical control study による比較検討を行っている。

また従来、慢性膵炎の疼痛コントロールのために超音波内視鏡下腹腔神経叢ブロック (EUS-CPB) が行われてきたが、その効果の持続期間が短いという問題点があった。この問題点を解決するために少量のエタノールを用いて EUS-CPN を行い、その有用性を検討している。

VI. 緩和医療に関する研究

近年、社会的に緩和医療への関心が高まり、緩和医療に貢献する手技も多く開発されている。特に消化管における緩和的治療は内視鏡を使用したものが主役となっている。当科では、従来から経口摂取不能の患者に対して PEG (Percutaneous Endoscopic Gastrostomy) を施行してきた。さらに胃手術既往のある患者に対して PEE (Percutaneous Endoscopic Enterostomy) を 1994 年より積極的に施行し、その臨床的有用性について報告を続けている。また新しい感染防止造設キットの開発にも取り組んでおり、合併症の軽減などの成果を上げた。

消化管癌、胆管癌に対して、バルーンなどによる狭窄解除術を行っている。さらにメタリックステント留置術を施行し良好な成績を得ている。また慢性膵炎や手術不能膵癌患者の疼痛コントロール目的で経胃的に腹腔神経叢ブロックを行い、治療成績を検討している。これらの手技は根治術が望めない患者や癌術後患者の QOL 改善に大きく寄与している。医療経済効果の観点からもその有用性を検討している。

「点検・評価」

診療面では、西新橋本院、柏病院、第三病院、青戸病院の 4 病院の内視鏡部の内視鏡検査を統括しており、診療内容の一層の充実と効率化を図っている。本院では診療内容の改善と安全管理の観点から部門別に責任者をおいて日常的問題に対して迅速な対応を行っている。

教育面では、慈恵医大内視鏡科方式として定着してきた内視鏡教育システムを継続している。すなわち、各々の内視鏡領域における研修取得目標を立て、ステップごとの研修内容と各段階での指導医による評価を実践している。コンピュータによって virtual endoscopy を可能とした computer based simu-

lator を有効に活用している。また、内視鏡診療技能について東京慈恵会医科大学内部での認定試験を行い、研修医・レジデントの技量を客観的に評価して内視鏡教育および医療安全に生かしている。現在上部消化管内視鏡認定試験が運用されており、新たに大腸内視鏡認定試験を導入する予定である。

臨床研究面では、内視鏡科の専門領域学会である日本消化器内視鏡学会における演題とくにシンポジウムなど主題への採択数は名実ともにわが国のトップに位置し、また米国消化器病学会採択演題数もわが国のトップレベルに達した。研究の成果を問うためには、学会で発表する形式と論文発表を行う二通りの方法がある。われわれが学会発表している独創的な研究成果の質・量から考えても impact factor の高い英文誌に投稿することが課題と強調しており、英文原著に採用される論文数が増加傾向にある。

附属4病院および関連クリニックでの内視鏡検査件数は、年間35,000~40,000件に及び、その検査数は国内外でも有数である。これらを臨床研究に応用していくためにはデータベース化の構築が必要である。本院を中心にデータベースを作成しているが、全体の統一したデータベース化を実現させていきたいと考えている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Tamai N, Kaise M, Nakayoshi T, Katoh M, Sumiyama K, Goda K, Yamasaki T, Arakawa H, Tajiri H. Clinical and endoscopic characterization of depressed gastric adenoma. *Endoscopy* 2006; 38(4): 391-4.
- 2) Uchiyama Y, Imazu H, Kakutani H, Hino S, Sumiyama K, Kuramochi A, Tsukinaga S, Matunaga K, Nakayoshi T, Goda K, Saito S, Kaise M, Kawamura M, Omar S, Tajiri H. New approach to diagnosing ampullary tumors by magnifying endoscopy combined with a narrow-band imaging system. *J Gastroenterol* 2006; 41(5): 483-90.
- 3) Ikeda K, Mosse CA¹⁾, Park PO¹⁾, Fritscher-Ravens A¹⁾, Bergström M¹⁾, Mills T¹⁾, Tajiri H, Swain CP¹⁾ (¹St Mary's Hospital). Endoscopic full-thickness resection: Circumferential cutting method. *Gastrointest Endosc* 2006; 64(1): 82-9.
- 4) Sumiyama K, Kaise M, Kato M, Saito S, Goda K, Odagi I, Tamai N, Tsukinaga S, Matsunaga K, Tajiri H. New generation argon plasma coagulation in flexible endoscopy: Ex vivo study and clinical experience. *J Gastroent Hepatol* 2006; 21(7): 1122-8.
- 5) Yonezawa J, Kaise M, Sumiyama K, Goda K, Arakawa H, Tajiri H. A novel double-channel therapeutic endoscope ("R-scope") facilitates endoscopic submucosal dissection of superficial gastric neoplasms. *Endoscopy* 2006; 38(10): 1011-5.
- 6) Sumiyama K, Gostout CJ¹⁾, Rajan E, Bakken TA¹⁾, Deters JL¹⁾, Knipschild MA¹⁾, Hawes RH¹⁾, Kalloo AN¹⁾, Pasricha PJ¹⁾, Chung S¹⁾, Kantsevov SV¹⁾, Cotton PB¹⁾ (¹Mayo Clinic). Pilot study of the porcine uterine horn as an *in vivo* appendicitis model for development of endoscopic transgastric appendectomy. *Gastrointest Endosc* 2006; 64(5): 808-12.
- 7) Nakagawa S¹⁾, Asaka M¹⁾, Kato M¹⁾, Nakamura T¹⁾, Kato C¹⁾, Fujioka T¹⁾, Tatsuta M¹⁾, Keida K¹⁾, Terao S¹⁾, Takahashi S¹⁾, Uemura N¹⁾, Kato T¹⁾, Aoyama N¹⁾, Saito D¹⁾, Suzuki M¹⁾, Imamura A¹⁾, Sato K¹⁾, Miwa H¹⁾, Nomura H¹⁾, Kaise M, Oohara S¹⁾, Kawai T¹⁾, Urabe K¹⁾, Sakaki N¹⁾, Ito S¹⁾, Noda Y¹⁾, Yanaka A¹⁾, Kusugami K¹⁾, Goto H¹⁾, Furuta T¹⁾, Fujino M¹⁾, Kinjyou F¹⁾ (¹Hokkaido University Hospital), Ookusa T. *Helicobacter pylori* eradication and metachronous gastric cancer after endoscopic mucosal resection of early gastric cancer. *Aliment Pharmacol Ther* 2006; 24 (Suppl 4): 214-8.
- 8) Goda K, Tajiri H, Ikegami M, Urashima M, Nakayoshi T, Kaise M. Usefulness of magnifying endoscopy with narrow band imaging for the detection of specialized intestinal metaplasia in columnar-lined esophagus and Barrett's adenocarcinoma. *Gastrointest Endosc* 2007; 65(1): 36-46.
- 9) Sumiyama K, Gostout CJ¹⁾, Rajan E¹⁾, Bakken TA¹⁾, Deters JL¹⁾, Knipschild MA¹⁾ (¹Mayo Clinic). Endoscopic full-thickness closure of large gastric perforations by use of tissue anchors. *Gastrointest Endosc* 2007; 65(1): 134-9.
- 10) Kaise M, Miwa J¹⁾, Suzuki N¹⁾, Mishiro S¹⁾, Ohta Y¹⁾ (¹Toshiba General Hospital), Yamasaki T, Tajiri H. Inducible nitric oxide synthase gene promoter polymorphism is associated with increased gastric mRNA expression of inducible nitric oxide synthase and increased risk of gastric carcinoma. *Eur J Gastroent Hepat* 2007; 19(2): 139-45.
- 11) Kuramochi A, Imazu H, Kakutani H, Uchiyama Y, Hino S, Urashima M. Color Doppler endoscopic

ultrasonography in identifying groups at a high-risk of recurrence of esophageal varices after endoscopic treatment. *J Gastroenterol* 2007; 42(3): 219-24.

II. 総 説

- 1) Matsuda K, Hawes RH¹⁾, Sahai AV¹⁾(¹Medical University of South Carolina), Tajiri H. The role of simulators, models, phantoms. Where's the evidence? *Endoscopy* 2006; 38(Suppl1): S61-4.
- 2) Tajiri H. How shall we effectively train gastrointestinal fellows in the near future? *Dig Endosc* 2006; 18(Suppl. 1): S143-9.
- 3) 仲吉 隆, 貝瀬 満, 田尻久雄, 斎藤彰一, 加藤正之, 吉田幸永, 米澤 仁, 山崎琢士, 郷田憲一, 今津博雄, 望月恵子. 胃腺腫の内視鏡的悪性度診断は可能か—NBIを併用した拡大内視鏡観察にて—. *消内視鏡* 2006; 18(4): 475-81.
- 4) 角谷 宏, 内山勇二郎, 池田圭一, 今津博雄, 炭山和毅, 倉持 章, 佐藤泰弘, 川村統勇, 田尻久雄, 岡本友好. 総胆管結石に対する内視鏡治療—乳頭切開術 vs 乳頭拡張術. *肝胆膵* 2006; 52(5): 737-46.
- 5) 松田浩二, 加藤智弘, 鈴木武志, 貝瀬 満, 田尻久雄. シミュレーションシステムを活用した内視鏡トレーニングシステム. *消内視鏡* 2006; 18(5): 605-9.
- 6) 貝瀬 満. CpG islandメチル化の臨床的意義とその検出法. *Helicobacter Res* 2006; 10(3): 196-201.
- 7) 荒川廣志, 貝瀬 満, 田尻久雄. 内視鏡治療時の抗凝固薬・抗血小板薬. *medicina* 2006; 43(8): 1258-62.
- 8) 鈴木武志, 田尻久雄. 大腸ポリペクトミーの適応と実際. *medicina* 2006; 43(8): 1314-6.
- 9) 今津博雄, 内山勇二郎, 角谷 宏, 倉持 章, 月永真太郎, 斎藤彰一, 田尻久雄. 内視鏡的治療—内視鏡硬化療法(EIS) Aethoxysclerol (AS)を用いた治療. *消臨* 2006; 9(4): 377-81.
- 10) 郷田憲一, 田尻久雄, 加藤正之, 吉田幸永, 貝瀬 満, 池上雅博, 清野洋一, 斉藤孝夫, 加藤孝邦, 森山 寛. NBI拡大内視鏡を用いた表在性中・下咽頭病変の診断—dysplasia・扁平上皮癌の特徴的内視鏡像に迫る—. *消内視鏡* 2006; 18(9): 1427-35.
- 11) 斎藤彰一, 池上雅博, 吉田幸永, 加藤正之, 米澤 仁, 益子貴博, 荒川廣志, 田尻久雄. 肉眼型別にみた大腸腫瘍の発育進展. *消化器科* 2007; 44(2): 147-53.

III. 学会発表

- 1) 山崎琢士, 貝瀬 満, 田尻久雄. (ワークショップ) 胃発癌と *H. pylori* : 遺伝子メチル化発現と除菌による可逆性. 第92回日本消化器病学会総会. 北九州, 4月.

- 2) 加藤正之, 郷田憲一, 田尻久雄. (シンポジウム) 食道表在癌の深達度診断における狭帯域フィルター内視鏡(Narrow Band Imaging: NBI)システム併用拡大観察の意義. 第71回日本消化器内視鏡学会総会. 東京, 5月.
- 3) 内山勇二郎, 角谷 宏, 田尻久雄. (シンポジウム) ERCPならびに関連治療手技を行うためのトレーニングシステムの確立. 第71回日本消化器内視鏡学会総会. 東京, 5月.
- 4) Goda K, Yoshida Y, Kato M, Nakayoshi T, Sumiyama K, Yamasaki T, Saito S, Kaise M, Tajiri H, Ikegami M. Clinical significance of magnifying endoscopy combined with narrow band imaging system for neoplastic lesions at oropharyngeal and hypopharyngeal sites. *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.
- 5) Ikeda K, Mosse CA¹⁾, Park P-O¹⁾, Bergstrom M¹⁾, Mills T¹⁾, Fritscher-Ravens A¹⁾, Tajiri H, Swain P¹⁾(¹St Mary's Hospital). Endoscopic full thickness resection (EFTR): Circumferential method using a new bi-directional cutter. *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.
- 6) Saito S, Ikegami M, Arakawa H, Tajiri H, Tsuruta O. Narrow band imaging: Is the observation of vascular pattern in neoplastic colonic lesions by using magnifying colonoscopy useful method of not? *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.
- 7) Odagi I, Kato T, Tajiri H. A study of normal intestine using confocal endomicroscopy. *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.
- 8) Yonezawa J, Kaise M, Yamasaki T, Yoshida Y, Mori N, Kato M, Goda K, Tajiri H. Long-term gastric pH monitoring with Bravo Wireless System: Effect of Omeprazole on acidic environment in patients with endoscopically resected gastric cancer. *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.
- 9) Kaise M, Yonezawa J, Yamasaki T, Miwa J, Tashiro JN, Tomita T, Matsubara Y, Tajiri H. What is a crucial factor related to CPG islands hypermethylation of tumor-related genes in *H. pylori*-infected gastric mucosa? *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.
- 10) Sumiyama K, Gostout CJ¹⁾, Rajan E, Bakken TA¹⁾, Deters JL¹⁾, Knipschild MA¹⁾(¹Mayo Clinic). Closure of gastric perforation with a novel tissue anchoring device. *Digestive Disease Week* 2006. Los Angeles, May.

- 11) Sumiyama K, Gostout CJ¹⁾, Rajan E¹⁾, Bakken TA¹⁾, Deters JL¹⁾, Knipschild MA¹⁾, Hawes, Kalloo AN¹⁾, Pasricha PJ¹⁾, Chung S¹⁾, Kantsevey SV¹⁾, Cotton PB¹⁾ (¹Mayo Clinic). *In vivo* appendicitis model using the pig uterine horn for development of transgastric appendectomy. Digestive Disease Week 2006. Los Angeles, May.
 - 12) Saito S, Nakayoshi T, Ikeda K, Kato M, Imazu H, Arakawa H, Kaise M, Tajiri H. An unknown findings of small intestine by capsule endoscopy. ICCE・2006・EUROPE. Paris, June.
 - 13) Matsuda K, Hawes RH¹⁾, Sahai AV¹⁾ (¹Medical University of South Carolina), Tajiri H. The role of simulators, models, phantoms: Where's the evidence? 15th International Symposium on Endoscopic Ultrasound—Learning live and looking forward (EUS2006). Amsterdam, June.
 - 14) Goda K, Tajiri H, Ikegami M, Imazu H, Kato M, Nakayoshi T, Uchiyama Y, Sumiyama K, Saito S, Kaise M, Omar S. Accuracy of tumour depth in superficial oesophageal squamous cell carcinoma using high resolution conventional endoscopy, magnifying endoscopy with narrow band imaging and high frequency endoscopic ultrasonography. 15th International Symposium on Endoscopic Ultrasound—Learning live and looking forward (EUS2006). Amsterdam, June.
 - 15) Imazu H, Uchiyama Y, Kakutani H, Goda K, Omar S, Kawamura M, Tajiri H. Can proximal biliary disorders be accurately assessed with curvilinear EUS? 15th International Symposium on Endoscopic Ultrasound—Learning live and looking forward (EUS2006). Amsterdam, June.
 - 16) 月永真太郎, 角谷 宏, 今津博雄, 内山勇二郎, 倉持 章, 松永和大, 加藤正之, 佐藤泰弘, 金澤慶典, 鈴木はるか, 荒井吉則, 益子貴博, 米澤 仁, 郷田憲一, 斎藤彰一, 荒川廣志, 貝瀬 満, 川村統勇, 瀬嵐康之, 小林 剛, 田尻久雄. 胆管周囲に著明なリンパ節腫大を認めた原発性硬化性胆管炎 (PSC) の1例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会. 東京, 7月.
 - 17) Kaise M. (Invitation Lecture) Recent advances in endoscopic diagnosis of early gastric cancer—detection of flat or depressed lesions—. 9th Annual Meeting of Korian Society of Digestive Endoscopy. Soal, Sept.
 - 18) 吉田幸永, 貝瀬 満, 田尻久雄. (シンポジウム) NBI併用拡大内視鏡は早期胃癌の optical pathology を実現できるか? 新たな微小血管類型と組織対比について. 第14回日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan 2006). 札幌, 10月.
 - 19) 加藤智弘, 小田木勲, 貝瀬 満, 田尻久雄. (シンポジウム) 共焦点内視鏡の virtual biopsy への可能性. 第27回日本レーザー医学会総会. 千葉, 11月.
 - 20) Tajiri H. (招聘講演) Endoscopic diagnosis of GI cancer with NBI. 8th Asian Pacific Endoscopy Masters' Forum. Cairns, Mar.
 - 21) Kaise M. (Special Invitation Lecture) Recent advances in endoscopic diagnosis and treatment of early gastric cancer. Taiwan DDW. Taiwan, Mar.
- #### IV. 著 書
- 1) 貝瀬 満, 仲吉 隆, 田尻久雄. NBI併用拡大内視鏡による早期胃癌診断およびESDへの応用. 田尻久雄編. 特殊光による内視鏡アトラス—NBI・AFI・IRI診断の最前線. 東京: 日本メディカルセンター, 2006. p. 96-107.
 - 2) 今津博雄, 炭山和毅, 田尻久雄. 消化器IVR. 門田守人, 跡見 裕, 炭山嘉伸監修. 消化器外科学レビュー2006: 最新主要文献と解説. 東京: 総合医学社, 2006. p. 170-5.
 - 3) 郷田憲一, 貝瀬 満, 田尻久雄. Barrett食道の定義. 丹羽寛文監修. 長南明道, 田尻久雄, 田中信治編. 内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 [上部消化管]. 改訂版東京: 日本メディカルセンター, 2007. p. 274-6.
 - 4) 荒川廣志, 貝瀬 満, 田尻久雄. 抗凝固薬・抗血小板薬について. 齊藤大三, 田尻久雄編. ESDの周術期管理. 東京: 日本メディカルセンター, 2007. p. 64-71.
 - 5) 斎藤彰一, 田尻久雄. 消化管拡大内視鏡の進歩. 菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫編. 消化器疾患最新の治療2007-2008. 東京: 南江堂, 2007. p. 24-7.
- #### V. その他
- 1) 小田木勲, 加藤智弘, 安達 世, 河原秀次郎, 大村光浩, 貝瀬 満, 田尻久雄. 直腸異所性子宮内膜症の1例. *Prog Dig Endosc* 2006; 68(2): 158-9.
 - 2) Goda K, Tajiri H, Kaise M, Kato M, Takubo K. Flat and small squamous cell carcinoma of the esophagus detected and diagnosed by endoscopy with narrow-band imaging system. *Dig Endosc* 2006; 18(Suppl. 1): S9-S12.
 - 3) Kakutani H, Imazu H, Uchiyama Y, Okamoto T, Tajiri H. Unusual migration of pancreatic stent used for transpapillary drainage of pancreatic pseudocyst. *Gastrointest Endosc* 2006; 64(2): 275-6.
 - 4) 鈴木はるか, 内山勇二郎, 角谷 宏, 今津博雄, 倉持 章, 加藤正之, 佐藤泰弘, 米澤 仁, 吉田幸永, 郷